

看護学科

辻 玲子

【研究分野】

【キーワード】

【U R L】

高齢者虐待の予兆を察知し虐待に至らしめない 外来看護支援モデルの開発

准教授

高齢者虐待予防、介護者支援、認知症ケア、認知機能維持・向上、多職種事例検討

高齢者虐待、予兆、外来看護、予防、介護者支援、看護支援モデル

<https://researchmap.jp/twin-brother/>

研 究 概 要

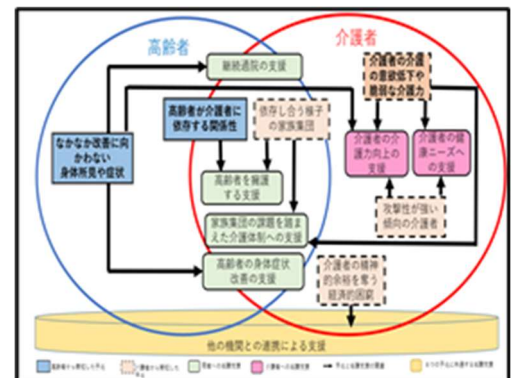
公表されている件数が高齢者虐待の実数ではなく、顕在化しない高齢者虐待、隠されている高齢者虐待が、その何倍・何十倍にも存在するといわれ、確認されている高齢者虐待は氷山の一角であるといわれています。そこで、病院や診療所の外来に通院する高齢者を対象に、病院や診療所の外来看護師が、本来の受診目的である診療や看護を提供する中で、高齢者の家庭生活に潜む高齢者虐待の目を摘むために、高齢者虐待の予兆を捉え、予防も含む看護支援を提供し高齢者虐待に至らしめないようにすることを目的に、外来看護支援モデルを開発する研究を行っています。

研 究 紹 介

インタビュー調査より明らかになったのは、外来看護師が察知する高齢者虐待の予兆は、高齢者から察知した

【なかなか改善に向かわない身体所見や症状】【高齢者が介護者に依存する関係性】、介護者から察知した【介護者の介護の意欲低下や脆弱な介護力】【介護者の精神的余裕を奪う経済的困窮】【攻撃性が強い傾向の介護者】【依存し合う様子の家族集団】の6つでした。高齢者虐待に至らしめない外来看護支援は、[通院継続の支援] [高齢者の身体症状改善の支援] [高齢者を擁護するための支援]

[介護者の介護力向上の支援] [介護者の健康ニーズへの支援] [家族集団の課題を踏まえた介護体制への支援]、[他の機関との連携による支援]の7つでした。これらの関連から「高齢者虐待の予兆を察知し虐待に至らしめない外来看護支援モデル」を構築しました。



講 座 テ ー マ 紹 介

- 高齢者虐待事例に過去に遭遇したことがない外来看護師が、高齢者虐待の予兆を察知するための高齢者と介護者に対するアセスメントを修得するための研修
- 高齢者虐待予兆察知後に予防的看護支援が実践できるようになる研修
- 元気高齢者対象「認知機能と生活習慣病」「認知症予防」「認知症を知ろう」
- 介護を考える講座：介護で出くわす問題を学び、認知症介護を楽にする方法を紹介
- 認知症に関連した多職種連携の講座、病院・外来での看護倫理に関する講座

アピールポイントなど

高齢者大学（埼玉未来大学）や様々な自治会で、認知症の知識・予防方法、認知症と生活習慣病の関連についてや認知症介護を考える講義を行っています。また、日本認知症ケア学会 関東1地域部会委員として、よりよい認知症ケアを行う為に、地域の専門職と一緒に事例検討会を実施して、多職種連携実践を検討しています。加えて、多様化するケアラーの中でも高校生ヤングケアラーに着目し、その支援者間連携モデルの構築に取り組んでいます。